

# 脚折雨乞

令和2年9月13日(日)

人をつなぐ、地域をつなぐ

※ 東京オリンピックの開催日程との関係から今年は、9月開催となります

近年、台風や豪雨など様々な水害をもたらす「雨」ですが、私たちの生活に欠くことのできない「恵みの雨」でもあります。脚折雨乞が持つ「人と自然の共生」の精神は、これからも受け継がれていく大切なものです。4年に1度の開催に向け、今から準備が始まっています。



脚折雨乞は、国選択無形民俗文化財、市指定無形文化財に指定され、江戸時代から継承されてきた市を代表する行事です。脚折雨乞の特徴は、長さ36メートル、重さ約3トンもある「龍蛇」を作って、雨乞いを行うことです。

龍蛇は、白鬚神社前で麦わらと竹、荒縄によって作られます。昨年の秋から「麦まき・麦踏み・竹伐り」を行い、材料の多くを脚折地域や近隣で確保しています。麦は大人が「ひとかかえ」ほどの大きな束を570束、竹は孟宗竹を80本も準備する必要があります。地

域が一体となって取り組みます。こうして作られた「龍蛇」は、雨乞行事当日、出発前の入魂の儀により「龍神」となります。この巨大な龍神を、約300人の男たちが雷電池までの約2キロメートルを担いで練り歩きます。

保存会平野会長 「4年に1度とは言え、前年からの準備を考えるとあっとい間です。いつもの保存会メンバーに加え、今年も若い世代や新しい顔ぶれもちらほら見られます。こうした地域のつながりを大切にしながら、いつも通り、無事に行事を執り行えるよう、準備を進めていきます。」

保存会平野会長 「4年に1度とは言え、前年からの準備を考えるとあっとい間です。いつもの保存会メンバーに加え、今年も若い世代や新しい顔ぶれもちらほら見られます。こうした地域のつながりを大切にしながら、いつも通り、無事に行事を執り行えるよう、準備を進めていきます。」

保存会平野会長 「4年に1度とは言え、前年からの準備を考えるとあっとい間です。いつもの保存会メンバーに加え、今年も若い世代や新しい顔ぶれもちらほら見られます。こうした地域のつながりを大切にしながら、いつも通り、無事に行事を執り行えるよう、準備を進めていきます。」



12月8日、保存会員の皆さんにより行われた「竹伐り」。龍蛇の骨格となる大きな竹を市内高倉の竹林から伐りだします。



11月に「麦まき」、12月と1月に「麦踏み」を行います。大きく育った麦を収穫するのは、5月下旬頃。



佐藤丈太ちゃん(3歳10か月)  
詩ちゃん(11か月)  
“2人仲良く歯みがき中”



馬場紬ちゃん(1歳9か月)  
“初めてのサングラス!”



吉原湊ちゃん(1歳10か月)  
“じいじあば大好き!”



笑顔の天使

## 編集後記

24ページから25ページで、新成人の皆さんの夢を紹介させていただきました。取材を通じて、新成人の皆さんが未来を見据え、着実にそれぞれの道を歩んでいると感じました。新しい時代を担う皆さんの今後のご活躍を願っています。

ご意見・ご感想は秘書広報課広報広聴担当へ

10200001@city.tsurugashima.lg.jp



脇坂立夏ちゃん(8か月)  
中嶋潤花(左)・光稀(右)ちゃん  
(ともに2歳8か月)  
“仲よし三姉妹?”



円谷壮佑ちゃん(2歳)  
“パパママ、大好き♥”

■ 2月号には『市議会だより第191号』、『わかば大学塾 塾生募集パンフレット』、『令和2年度市町村交通災害共済会員募集リーフレット・加入申込書』が折り込まれています。

